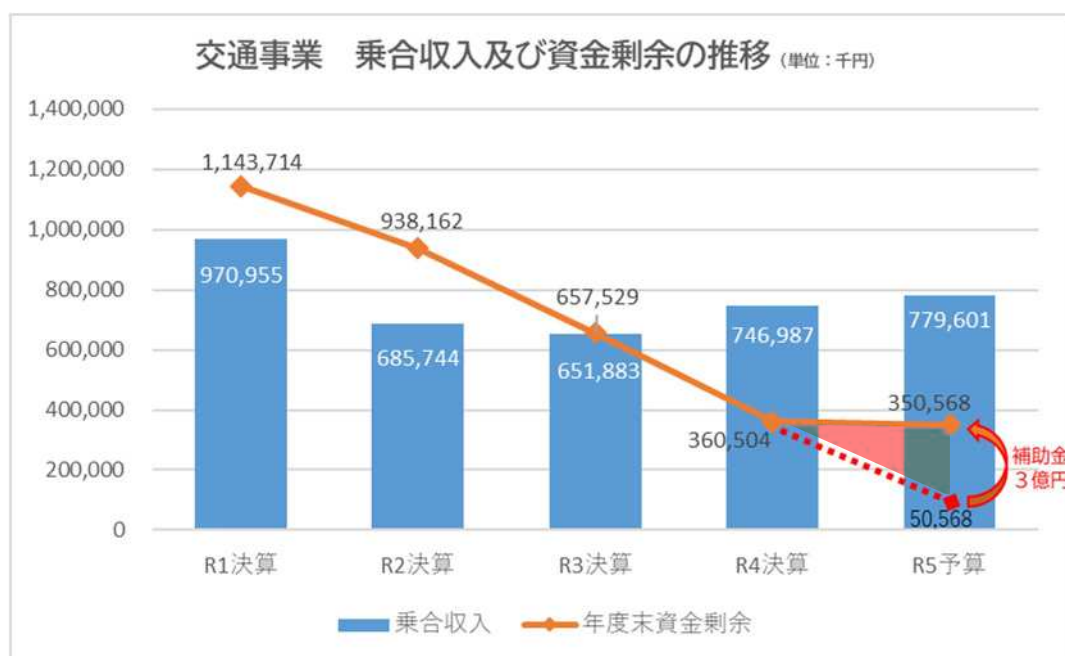


## 交通政策について (市営バス事業における経営改善の取組について)

### 1 交通事業の現状

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、乗合収入が令和元年度と比較して約23%減少したことなどにより、累積資金剰余が約3.6億円まで減少した。

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが第5類になったものの、乗合収入が令和元年度と比較して、約2割減で推移しており、「乗合収入」がコロナ禍前の水準まで回復せずに推移していくと想定している。



### 2 令和5年度の経営改善に向けた取組

#### (1) 経営状況の市民周知

##### ア 市民への情報発信の強化 (別紙1のとおり)

##### (ア) 目的

市営バスの情報等を積極的に発信 (市営バスへの理解・親しみの醸成)

##### (イ) 取組内容

- イベント等に出展し、運転者体験などを実施
- SNS (X、Instagram等) を活用し、市営バスの情報をリアルタイムに発信

【SNS発信の概要 (令和6年1月末現在)】  
投稿数: 136件 (週2~3件程度投稿)

## **イ 危機感共有の取組**

### (ア) 目的

- ・生活の足を守っていくために、市民に市営バスの現状を分かりやすく周知し、危機感を共有
- ・これまで以上のバスの利用を促進（月2回乗ってもらう）

### (イ) 取組内容（令和6年1月29日から周知開始）

ポスター・チラシを作製し、各所に掲示、配布

- ・営業所、案内所、バス車内、バス停、SNSやホームページの活用
- ・企業や大学、高校等への働きかけ

### (ウ) ポスターデザイン

別紙2のとおり

## **ウ アンケートの実施**

ポスター及びチラシにQRコードを貼付し、利用者の声を今後の施策に反映

## (2) 経営状況の分析、収支改善に向けた取組の検討及び実施

### **ア 増収対策**

- 乗合バス利用者の拡大
  - ・企業誘致を促進するための路線整備（学術研究都市、響灘地区）
- 貸切・受託事業の営業強化
  - ・若松区の観光地化との連携

### **イ 筋肉質な経営体質への転換**

- 運行エリアの見直し
  - ・効率的・効果的なダイヤ編成の見直し
  - ・維持すべきエリアと維持困難なエリアの整理
- 適正な運賃体系の検討
- シェイプアップに向けた取組
  - ・車両整備計画や施設整備計画等に基づく取組
  - ・一步先の先進技術に関する調査研究（ダイヤ、EVバス等）

### **ウ 利用者サービスの向上**

- SNS等による利用者との「つながり」強化
  - ・広報計画に基づく広報活動（SNSの活用など）
  - ・利用者アンケートの実施→利用状況も踏まえた改善

### **エ 運転者確保**

- 新規運転者の確保
  - ・運転者確保に向けた処遇改善
  - ・若者や子どもの関心を高める取組
- 運転者の効率的な勤務体系の構築

### **オ 市営バスのあり方**

- 市営バスのあり方と役割
  - ・「市営バス事業のあり方・役割」検討会
  - ・本市における公共交通の将来像と実現策に関する検討への参画

### 3 今後の取組予定（令和6年度）

#### （1）有識者の意見聴取等

経営改善の具体的な項目等について、有識者の意見聴取を行う。

#### （2）経営状況の分析、収支改善に向けた取組の検討及び実施

令和5年度に引き続き実施

### 【参考】令和6年能登半島地震に対する交通局の支援

#### （1）支援内容

市職員輸送業務

- ・1月20日から21日にかけて、第1班（16名）を北九州市から被災地まで観光バスで輸送
- ・1月22日から毎日、宿泊先から輪島市役所まで市職員を輸送

#### （2）支援期間・派遣人数等

- ・令和6年1月20日から約1か月間（予定）
- ・運転者延べ9名（支援期間中の派遣予定数）、観光バス1台派遣

「市民への情報発信の強化」について

1 イベントへの出展

○若松みなとまつり



○エコライフステージ



2 SNSでの情報発信

○日本バス協会主催「日本のバス120年企画『SNSによる写真投稿』」



○SNSの投稿内容（閲覧数：約5.3万件【R6.2.1現在】）



# これからも バスを守りたい…



## 危機的な状況

# 「ピンチです」

市営バス乗っている人は

「あと月に2回」

乗っていない人は

「月に2回」

**「通勤」「通学」「お買い物」**  
 便利な市営バスをご利用ください！  
 乗ってまもろう、公共交通  
 (バス・電車・タクシーなど)

アンケートに  
ご協力ください



## 市営バス全職員からのお願いです



## ★チラシに込めた想い“作成担当者（元運転者）”★

### エピソード1

～ ただ運転が好きといった理由だけで入局した交通局 ～

交通局に入局する前も大型に乗っていたので  
運転に関しては何も緊張感はなかったが  
その甘い考えが一変する  
レベル高い接客・接遇、そこに運転技術  
自分自身器用な方ではないためか  
車内・車外の安全確認、案内放送、接客、運転操作すべてが同時進行  
試行錯誤の連続だった記憶しかない

長い研修を終え、初めての一人乗務、緊張しながら若戸大橋を運行したことは、今も鮮明に覚えていて

当時はバス利用者がとても多く、一部の路線では通勤通学時間帯の臨時便ができる程だった。  
そのため運行が遅れ、お客様にお叱りを受けることもあったが  
お客様からのあたたかい声も沢山あった。その中でも「あんた運転上手だね」この言葉が一番印象に残っている

同年代の仲間も沢山いる職場で、それなりに楽しく緊張感もって運転業務に徹していたが、ある日、異動で状況が変わる

### エピソード2

～ ドライバーから事務仕事へ ～

そこは事故や苦情、新人の教育をするところである。それには、同僚と笑った  
どちらかといえば、してはいけないことをしたくなるタイプ そんなお堅いところで勤まるのか、といった会話したことを覚えている

覚悟を決め、新たな職場で頑張る

ただ、そこには鬼軍曹のような上司がいた。普段はとても優しいが怒ると人が変わったかのよう  
に鬼へと変身する そんな上司から、お客様の安心・安全を確保するために「優しさだけではダメだ。少しの油断が重大事故につながる」と指導教育について、徹底的に教わった。しかし、鬼にはなれなかった

そんな数年間も人事異動で

次の職場はデリケートな上司が沢山いる。いままでの体育会系とは少し印象が違う  
そんな職場で交通局の内情を知ることになる

### エピソード3

～ さらなる異動で管理部門へ 経営状況がピンチ！ ～

バス利用者が少なくなっていることは分かっていたが、このままでは・・・  
交通局の存続ができない程に激減  
コロナの影響なのか、生活スタイルの変化でバス利用する方が減ったのか  
そんなことはどうでもいい

このピンチからの脱却が必要である

厳しい状況をのりこえるため、プロジェクトチームをつくり議論を重ねた  
交通局の物語は約100年近くある。その間、多くの方が利用し様々な思い出がつまんでいる。そんな物語を終わらせることはできない。

ただ、どう改善しピンチから脱却する方法がわからない  
満足いく経営状況で運行している時は、こんな議論はなかったはずだ  
ある意味、スキルアップを踏まえ、自分自身にも良い経験であることは間違いない  
いままでは削減するしか改善方法がなかったが  
それは逆効果なのかもしれない  
プラス思考も大事である。減らしてダメなら増やしてみる。そんな改善も価値がある。  
減らすことよりも増やすことを考えた方がやりがいは上がる

手探り状態の中、まずはチラシ・ポスターで交通局の現状を知ってもらいたい

### エピソード4

～ 市営バス乗っている人は「あと月に2回」 ～

～ 乗っていない人は「月に2回」 ～

ここからはバスを利用しやすい環境をつくっていくために（安らぎある市営バス）  
交通局全職員でピンチから脱却するために  
交通局の物語を後世に伝えていくために  
市民の幸せを運ぶために  
全職員で交通局の物語を続けていく・・・